

# ネットワーク・コミュニティ活用学習の単元開発と評価

学校教育専攻  
総合学習開発コース  
井手上典弘

指導教官 藤村裕一

## 1. 問題の所在

社会の情報通信基盤の急速な整備に伴い、教育現場でも情報通信ネットワークの整備が進んできた。これからの情報通信社会を生きる児童は情報通信ネットワークを活用したコミュニケーション能力を身につけることが求められている。一方、人とかかわりの中で学び共に生きる心を育むことが重視されてきている。

これらの力を身につける場としては総合的な学習の時間で役割が大きく、福祉単元で特に有効である。しかし人とかかわりを広げるネットワーク・コミュニティを活用した単元開発の視点が十分明確化されておらず、実践も少ない。そこでネットワーク・コミュニティを「情報通信ネットワーク上に存在する、共通の目的や活動を通して成立している共同体」と定義し、問題解決のために、ネットワーク・コミュニティーを利用し、そのコミュニケーションの在り方について研究したいと考えた。

## 2. 研究の目的

総合的な学習の時間における福祉単元でのネットワーク・コミュニティ活用学習の視点を明確にするために、単元開発と実践を行い、その評価をすることを本研究の目的とする。

## 3. 研究の方法

- (1) ネットワーク・コミュニティ活用単元開発の際の仮説を明らかにする。
- (2) ネットワーク・コミュニティ活用単元を開

発をする。

- (3) ネットワーク・コミュニティ活用単元の実践を評価し、課題を明らかにする。
- (4) ネットワーク・コミュニティ活用単元の開発の視点を提案する。

## 4. ネットワーク・コミュニティにおけるコミュニケーションの意義

これからの時代を生きる児童は、立場や考えの異なる人たちとコミュニケーションを通して理解を深め、共生していく態度を身につけることが求められる。そこで時間的・空間的に制約を受けず、多くの人とかかわることのできるネットワーク・コミュニティの利用は有効であり、共に生きる心を育む人間教育としても重要なものである。

## 5. ネットワーク・コミュニティを活用した単元開発の視点

利用の視点として、多くの人とかかわるネットワーク・コミュニティ提供や相互理解を深めるコミュニケーション、質の高い交流のための支援が必要である。これらにより児童が質の高いコミュニケーションを行い、相互の心情の理解を深め、共生の心が育っていく。

さらに質の高いコミュニケーションにするためには、必要なスキルを計画的に育て、情報モラルや責任についても育てていく必要がある。そこで情報教育の目標を踏まえ指導計画を作成し、コミュニケーションの質の向上を図った。

## 6. ネットワーク・コミュニティを活用した福祉教育単元のねらいと展開

### (1) ねらい

奉仕活動や福祉施設訪問などの福祉活動を行うことと、ネットワーク・コミュニティに参加することによって、高齢者や障害者への理解を深め、他者への優しい心や共に生きようとする心を育てる。

### (2) ネットワーク・コミュニティの選定

ネットワーク上の多くの掲示板では書き込みが進んでいないサイトや商業目的の書き込みが多く、管理者が管理できていないものもある。そこで歴史があり、管理も確かで参加者の意識も高く、意欲的に意見の交流が図られているSIG ヒューマン・ソサエティを選定した。

### (3) 単元の展開

総合的な学習の時間において、第5学年 41名を対象に単元 30 時間を構成し、実践した。

## 7. ネットワーク・コミュニティの活用による実践の効果

児童はネットワーク・コミュニティでの交流を通して「近所の人やお年寄りたくさん話せるようになった」などの効果をあげている。また授業前のお年寄りのイメージとして、「体や目が不自由」、「耳が遠い」などといった身体的な特徴をあげ、「物知り」、「優しい」といった内容は少なかった。授業後は、身近なお年寄りやネットワーク・コミュニティのお年寄りにかかわることを通して意識が変化してきた。しかし、目標を達成しているとは言えない。(図1)

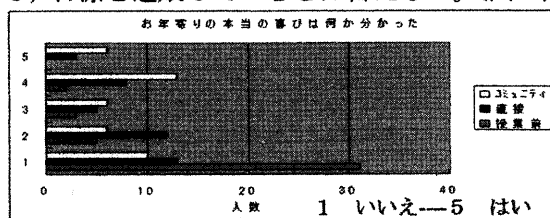


図1 お年寄りの本当の喜びは何か分かった

その理由として、お年寄りとの交流の量が少ないことがあげられ、交流の量を確保する体制が必要である。また少ない量の交流で理解を得るには、交流の内容を教師が鋭く見抜き、共通化していく教師の支援が必要となる。さらにお年寄りの喜びを理解するためには、児童のコミュニケーション能力を高めることが必要である。またお年寄りとの緊密な打ち合わせは不可欠である。

## 8. 評価から明らかになった単元開発の視点

人間関係の希薄化が叫ばれている現在、時間的・空間的に広がりをもったネットワーク・コミュニティを利用して人間相互の理解を深めていくことは重要なことである。これは明確な目的をもったコミュニケーションを図ることや教師の適切な支援があつて価値は高まる。そこで単元の展開の分析を基にネットワーク・コミュニティ活用学習における留意すべき単元開発の視点を次にまとめた。

### (1) 明確な目的をもったコミュニケーション

- ・ネットワーク・コミュニティ利用の必要感をもたせる単元構成
- ・目的に沿ったコミュニケーションの量と質
- ・直接体験とネットワーク・コミュニティの利用
- ・児童が成就感をもつ支援

### (2) コーディネーターとしての教師の支援

- ・単元の目標に沿った緊密な打ち合わせ
- ・児童の意識の流れに沿った柔軟な単元構成(時間配分を含む)

### (3) コミュニケーション能力を高める計画的な支援

- ・事前までに高めておく情報教育の内容
- ・日常の中でコミュニケーション能力を高める支援